

自由応募分科会3 「ベトナム社会の上位層」

報告2

藤田 麻衣 (アジア経済研究所)

ベトナム大企業経営者の属性と出世過程—ホーチミン証券取引所上場企業の経営者の考察— (Profiles and career paths of top managers of large state-owned and private companies in Vietnam)

要旨：

ベトナムにおける企業経営者は、ドイモイ下で企業の役割と機能が根本的な転換を遂げたことによって新たに形成された層である。就労人口の数パーセントを占めるにすぎないものの、近年では、経営を通じ膨大な富を蓄積する経営者の出現などにより、ベトナム社会における経営者の位置は着実に高まっている。

このように台頭著しい企業経営者層は、どのような人々によって構成されているのだろうか。先行研究は、ドイモイ初期に企業経営者となった者の多くは、国家セクター出身か政治的コネクションを持つ者であったと論じてきた。しかし2000年代以降に生じた、対外開放の進展や証券市場上場といった動きは、高度かつ専門的な経営人材を要請するという点で、経営者にも変化を迫るものである。

本研究は、企業セクターをめぐる変化がとくに顕著だと考えられる上位上場企業経営者の属性や出世過程の分析を通じて、リスクを負いつつ事業を営むことで経済的豊かさや名声を手にする機会がどのような人々に開かれているのかを明らかにしようとする試みである。

筆者が独自に構築したホーチミン証券取引所上場企業の上位100社のトップ経営者169名のデータベースの分析からは、企業経営者層の参入機会の開放性に関し、二つの相反する傾向が浮き彫りになった。一方では、上位上場企業の経営者には依然として、国家セクター出身者を中心とする旧世代が多く含まれる一方、元国有企業や純粋民間企業の総社長職などにおいては、国家セクター勤務経験はなく、高度な学歴と技能を有する新たな経営者層が生まれた。他方、2000年代以降、国有企業と民間企業のそれぞれにおいて、大規模・高収益企業の経営者となる機会を限られた一握りの層に集中させる閉鎖的な構造が維持されるとともに、新たに生成しつつある。